

新『小学校学習指導要領』（平成20年3月告示）と 博物館展示との関連（例）

【理科】 * 「A 物質・エネルギー」「B 生命・地球」のうち展示と関連するのはBの領域

学年	目 標	内 容	※取り扱い	関連する展示等
第 5 学 年	<p>(2) <u>植物の発芽から結実までの過程、動物の発生や成長</u>、流水の様子、天気の変化を条件、時間、水量、自然災害などに目を向けながら調べ、見いだした問題を計画的に追究する活動を通して、<u>生命を尊重する態度</u>を育てるとともに、<u>生命の連続性</u>、流水の働き、気象現象の規則性についての見方や考え方を養う。</p>	<p>B 生命・地球</p> <p>(1) 植物の発芽、成長、結実 植物を育て、<u>植物の発芽、成長及び結実の様子</u>を調べ、植物の発芽、成長及び結実とその条件についての考えをもつことができるようにする。 ア 植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。 イ 植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。 ウ 植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。 エ 花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。 ※アの「種子の中の養分」については、でんぷんを扱うこと。 ※エについては、おしべ、めしべ、がく及び花びらを扱うこと。また、<u>受粉については、虫や風が関係していること</u>にも触れること。</p> <p>(2) 動物の誕生 魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりして、卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ、<u>動物の発生や成長</u>についての考えをもつことができるようにする。 ア 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がたつにつれて中の様子に変化してかえること。 イ <u>魚は、水中の小さな生物を食べ物にして生きていること</u>。 ウ 人は、母体内で成長して生まれること。 ※ウについては、受精に至る過程は取り扱わないものとする。</p> <p>(3) 流水の働き 地面を流れる水や川の様子を観察し、流れる水の速さや量による働きの違いを調べ、<u>流れる水の働きと土地の変化の関係</u>についての考えをもつことができるようにする。 ア <u>流れる水には、土地を浸食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること</u>。 イ 川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。</p>	<p>【自然】 ・「いのちの詩」 ～「ブナの一生」</p> <p>・虫媒花、風媒花について →自然展示室の解説員、学芸員の解説</p> <p>【自然】 ・「いのちの詩」 ～ハタハタの産卵等 ・雌雄のそろった各種の動物標本や、剥製 →自然展示室の解説員、学芸員の解説</p> <p>【自然】 ・「大地の記憶」 ～海岸線の変化「縄文の海と山」 ・堆積岩 砂岩、泥岩、頁岩、化石を含む砂岩等</p>	

<p>* 指導計画の作成に当たって</p> <p>(3) 博物館や科学学習センターなどと連携，協力を図りながら，積極的に活用するよう配慮すること。</p> <p>(2) 生物，天気，川，土地などの指導については，野外に出掛け地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を多く取り入れるとともに，自然環境を大切に，その保全に寄与しようとする態度を育成するようにすること。</p>			<p>◇出前授業や水心苑での野外学習</p>